

第 1089 回 高知市教育委員会 1 月定例会 議事録

1 開催日 平成 24 年 1 月 26 日 (木)

2 委員長開会宣言

3 議事

日程第 1 会議録署名委員の指名について

日程第 2 市教委第 1 号 高知商業高等学校の課程, 学科及び科の設置に関する規則の一部改正について

4 出席者

(1) 委員	1 番委員長	門 田 佐智子
	2 番委員	西 山 彰 一
	3 番委員	山 本 和 正
	4 番委員	西 森 やよい
	5 番教育長	松 原 和 廣
(2) 事務局	教育次長	依 岡 雅 文
	教育次長	松 井 成 起
	総務課長	池 畠 正 敏
	学校教育課徴	土 居 英 一
	学校教育課学校教育班長	多 田 美奈子
	学校教育課学校教育班指導主事	竹 村 晃
	総務課総務係長	宮 田 小 町
	総務課総務係主査主事	森 尾 美 舗

第 1089 回 高知市教育委員会 1 月定例会 議事録

1 平成 24 年 1 月 26 日 (木) 16 時 00 分～16 時 40 分

(たかじょう庁舎 5 階会議室)

2 議事内容

開会 午後 4 時

門田委員長

只今から、第 1089 回高知市教育委員会 1 月定例会を開会いたします。

はじめに、会議録署名委員の指名を行います。署名委員は、山本委員さん、お願いいたします。

それでは議案審査に移ります。

本日の議案は 1 件。日程第 2 「市教委第 1 号高知商業高等学校の課程、学科及び科の設置に関する規則の一部改正について」を議題とします。

事務局の説明をお願いいたします。

学校教育課長

「高知商業高等学校の課程、学科及び科の設置に関する規則の一部改正について」ご説明いたします。高知商業高等学校の学科改編につきましては、11 月の定例教育委員会においてご承認いただいておりますが、学校教育法第 4 条におきまして都道府県の許可を得ることになっております。このたび、県より許可が得られましたので、今回規則の一部改正を行うものでございます。資料をご覧ください。新旧対照表のほうがいいと思います。4 ページでございます。今回の改正は全日制の課程の科名の変更でございます。現状では、総合ビジネス科、情報システム科、コミュニケーション科となっておりますが、これを総合マネジメント科、社会マネジメント科、情報マネジメント科、スポーツマネジメント科に変更しようとするものです。以上よろしくお願いいたします。

門田委員長

この件に関して質疑等をお願いいたします。

松原教育長

総合ビジネスとか、システムとかコミュニケーション等がすべてマネジメント科という形になっているわけですが、今なぜマネジメント科に名前を変えようとしているのか、そのあたりの説明をお願いいたします。

学校教育課指導主事

今回の改編にあたって、全ての科においてマネジメントという言葉掲げさせていただきました。学習指導要領において、生きる力の育成ということが理念として上げられておりますけれども、それを商業高校としましては、マネジメント力として捕らえております。21 世紀のグローバル化と知識基盤化の社会においては、単なる経営学や会計学などのビジネスのノウハウだけを学んでも、資格取得をしたとしても、就職や進学といったことができる時代というものが終焉を迎えております。このことは商業高校に限らず、普通高校、大学においても指摘されており、20 世紀型のマニュアルが読めて着実に物事が実行できる人材育成からの転換が、教育に求められているところでございます。現在、社会から求められている力は、業をなす力、つまり企業家精神であるとか、課題発見・課題解決、コミュニケーション能力、チームで働く力、などがあげられております。これまでの商品の生産、流通、消費に関わる経済的諸活動を総合的に捉えるビジネス教育か

ら、このマネジメント教育への転換を図ることを目指しました。

全国的には、各県の商業高校におきまして7つの科がマネジメントという科の名称を掲げております。しかしながら、全国どこも単科のマネジメント学科でありまして、全部の学科にマネジメントを掲げるのは、当校だけでございます。

キャリア教育も包括した、マネジメント教育の推進を目指しております。学習指導要領が平成25年に改訂されますけれども、その中に新設する科目として商品開発とかビジネス経済、管理会計、ビジネス情報管理といった新しい科目が設置されております。その強化の目的としましては、体験的に理解をさせるだとか、開発、提案する能力、態度を育成するとか、経営管理に必要な情報を活用して意思決定をする力、知識、技術の習得を目指すといったものがうたわれております。学習指導要領におきましても、本校が目指すマネジメントといったものが目指されているものでございます。また、先だつての学科改編のときにご提示いたしましたが、学校設定科目というものをどの科においても設定しております。いわゆる演習型、体験型といった授業を展開して探究活動を深めてまいりたいというふうに考えております。探究活動を深める中で、自らの課題発見・課題解決、そして国際地域社会で活躍ができる人材を育成していきたい、という考えでございます。

西山委員

マネジメント、総合、社会、スポーツといった文言ですが、一般市民の方にとって分かりやすい表現で定義づけることを期待しているのですが、いまお聞きしました定義づけといたしますのは、かなり状況に通じている人でやっと分かる位ではないでしょうか。ここで言われますマネジメントとは、総合とは、社会とは、それぞれなんぞやという形で、沿革を示しませんと、学校の目指す仕組みというものが、少しぼやける、いかえれば志願者への情報提供ということであり親切でないということになるかと思えます。

松原教育長

中学校向けにパンフレットを作った場合、総合マネジメント科というのは分かりやすく説明文はつけて送付するということになるのでしょうか。

具体的にスポーツマネジメント科はどういうことを狙っているのですか。

学校教育課指導主事

スポーツコミュニケーション1、2、3という教科を、学校設定科目として設定しております。まずは、スポーツというものの基礎的な知識を習得いたします。そして先ほどのマネジメント力をプラスし、地域・国際社会において、スポーツを通じて社会に貢献できる人材の育成を目指すこととございます。また本校にとっては、各スポーツクラブ、運動部に対する期待も大変大きく、運動部の活性化を担う中心的な人材を育成していきたい、ということも考えております。

松原教育長

スポーツマネジメント科を受験する者には、例えば陸上で100mが何秒以上とか、野球は県体でベスト4とかそういうふうな括りはないということですか。

学校教育課指導主事

これは入試の問題になってまいりますので、5月の教育委員会にもかけてご審議いただくところでございますけれども、基本的には、今の入試制度の学科試験を基本とします。それに教育長の言われました、いわゆる特技というものの実績を加味する。もう一点、実技審査を課すように準備を進めてまいりますけれども、特定のクラブの専門的能力ということではなく、基本的な実技審査になってまいります。特に、野球に関しては、入試において野球の実技をすることを高野連が禁じておりまして、共通的に基礎的な体力というものを見させていただこうというふうに考えております。

西山委員

是非、お考えいただきたいと思っっていることなのですが、今までの流れを下に修正していくという考え方ではなくて、高等教育までの間のことを考えていただいて、多目的な分野を高校生として導入していただきたいと思います。例えば、スポーツのことを例にとってみるならば、将来のアスリートのコーチになるような人たちを養成するというようなことがあります。同じように野球をするにしてみても、筋力を有効に使うためのサイエンスの利用があります。これは、高知県出身の浜田貞雄氏、高知工業高校出身、スタンフォード大学で30数年間指導をされて、オリンピックの監督をされている方によるものなのですが、その方によれば勝つためには必ずサイエンスの裏づけがなければならない、と言っていますし、コーチをするにしてもサイエンスの裏づけができないと選手をダメにしてしまうということを指摘しています。高校でマネジメントという言葉を超す以上、高校生にふさわしいマネジメントスキルというものを総合的なサイエンスに基づいてダウンロードしたものであることを期待したいものです。

門田委員長

科が3つから4つに増えるのですね。募集の人数などは変わらないのですね。

学校教育課指導主事

募集人員総枠の280人は変わりません。

松原教育長

商業高校も、これからは大学へ推薦入学制で行ける時代ではなくて、センター入試を受けて入るような時代に入るのではないかと、校長先生からお聞きしております。特に、総合マネジメント科のなかに特進のコースを作るといようなことを聞いているが、具体的に話しをしてもらえますか。

学校教育課指導主事

特進コースについては、本年度スタートしており、1期生が1年生で勉強を始めています。総合マネジメント科は2クラスずつで特進クラス2クラス、ライセンスコース2クラスを考えております。この2クラスについては、1年次での振り分けを行います。入学時に希望を取って、2クラス編成にするのか3クラス編成にするのか、といったことを決めてまいりたいと考えております。特進についても、ライセンスについても進学を目指す科でありますけれども、特に特進クラスについては、公立大学を目標に掲げておりますので、センター試験を受けられるようなカリキュラムを組んでいるところでございます。

松原教育長

総合クラスが4つあるものを、特進クラス2つ、ライセンスコース2つに、1年次から希望によって、仕分けをするということですか。今、実際に1年生で行っているのですね。

山本委員

高校を卒業して就職したいというお子さんに対して、科の名称の変更と同時に、商業という名称を掲げる学校として、就職についてどのように考えられていますか。

学校教育課指導主事

商業高校という名前を掲げている以上、就職ということは生命線であると考えています。今現在は、就職する者は2割ですけれども、生命線であると考えています。なかなか県内の求人状況が厳しくて、現在もまだ就職希望者の中で就職できた者は100%には達しておりませんが、昨年度は最終的には100%まで達成できました。就職については、校友会組織を挙げて、全力で希望の職種への就職を目指していきたいと思っております。

山本委員

「商業へ行けば就職率が高いですよ。」と、言われるような形になればと思います。

門田委員長

他にありませんでしょうか。

西森委員

時代にあわせ変革をするということかと思えます。科も名前も一新するというかと思えますが、高知商業高校としての伝統として、脈々と底流に流れて受け継いできたものがきっとあると思えます。これを引き継いでいくということについては、どのように捉えておられるのか教えていただきたいと思えます。

学校教育課指導主事

現在、長期計画を立てておまして、10年後の本校の目指す姿の実現のための構想の中での、マネジメント科への変革でございます。この中で10年後の本校の目指す姿として、進学にも就職にも強い学校、そして元気のある学校、というものを掲げております。その、元気のある学校というものの中には、先ほどお話をさせていただきましたクラブ活動の活性化であるとか、また、今年の文化祭でも約2000人の集客をいただきましたが、文化祭、体育祭といった伝統ある行事、そしてラオスの学校建設活動といった事業を大切に守っていく、その中でマネジメント力の育成といったことを進めていきたい、というように考えております。

松原教育長

厳しい社会状況の中でも、商業高校を卒業して社会に出て就職ができる、そういう子を育てていくということがひとつの生命線であると、竹村先生が言われたわけです。そのためには、商業高校として、卒業生としてどのような力、つまり企業で求められていく力、マネジメント力と言うのだと思うが、他の高校生と競って企業の要請に応えていく力はどういう力なのか、というのは、先生の個人の意見でも良いが、聞かせてもらいたい。

学校教育課指導主事

商業高校と普通高校の違いとして、前回の教育委員会でもお話しましたが、経済・社会に密着した活動なり体験なりを通じて、実社会に近づいた学びを進めているというのが商業高校の特徴でございます。企業家精神、さきほどは「業をなす」と申し上げましたけれども、組織の中に入っても、また自分が会社を作って起業するという意味でも、端的に申しますと自立した人材というものを育てていきたいと思っております。それとともに、チームで働く力ということが、大変言われていますけれども、スポーツであるとか行事であるとか、そのようなところで、本校の生徒は非常に力を発揮しているのだと感じています。かつて、就職において各クラブのマネージャーが大変優遇された時代がございましたけれども、今一度こういったリーダーシップ、コーディネートする力といったものを身に付けて、自らの未来を切り開いていける気質・素材を育てていきたい、そういったふうに考えております。

松原教育長

かつては商業のおはこと言われた、例えば信用金庫であるとか銀行であるとかの職域に、最近も、商業高校の子どもが採用されたという話も聞いたことがあります。例えばそういうところに、商業高校の子どもが採用されていくためには、やはりライセンスという問題も相当大きな問題になっていくのではないかという感じがするのですが、そのあたりはどうでしょうか。銀行に採用されたというような子どもなどは、そういうライセンスなんかはしっかり持った子どもという事なのではと思うが、どうなのでしょう。

学校教育課指導主事

市議会においては、近森議員などから26年ぶりに高知銀行に合格したとご報告をいただきましたが、今回採用された生徒は、運動部のマネージャーでございます。ここ10年ばかりは銀行関係は高卒を採用しない状況でしたが、近年企業の採用の形態も変わってまいりまして、間口を広げていただいております。しかしながら、状況は大変厳しく、大学生、社会人と同一基準での採用枠の中に入れられております。そこでやはり、数年は基礎学力という部分で採用から落ちていったのですけれども、今回の高知銀行では、高校生枠4名を構えていただき、その中で本人が培ってきました、先ほど申しましたマネージャーとしての力が評価された

のかと考えます。ただ、基礎学力という面では、まだ不十分だという感が強い。確かに大学生と同じ土俵で競うということにはなりませんけれども、その部分の強化は、図っていかなければならないと思っております。

西山委員

OB、校友会などの力を借りて学校のカラーを真に発揮するというようなことにすれば、かなり採用が広がるのではないかと思います。商業高校に必要な、コミュニケーションとか、読む、書く、感じ取る、行動する、反省する、整理整頓する、色々なものがあるのですが、一般の進学校での、読む、書く、話す、発表するということとは違ってくると思います。例えば、ラオスに学校を作る運動等をしている訳ですが、そのことをとって高知商業高校ならではの特徴があるので、それを際立たせたら就職に強い力を発揮するのではないのでしょうか。

歴代の高知商業高校を卒業された方は、明らかに特徴的なこととして、骨太です。骨細の人はいません。骨太でコミュニケーションスキルに長けている人が多いですね。いわば、たくましい番頭さん型の方が高知商業を卒業しているのです。そういう人材を育成することをベースにおいて、マネジメントということを築いておかないと、中途半端なものになってしまうような気がします。大学のマネジメント学科で育つようなものを考えると、見当違いになってしまうと思います。商業高校の、百十数年の歴史を継承された上での、今回の改編ということでないといけないと思います。高知商業高校の歴史というものは素晴らしいものがあるということを理解した上で、校友会、同窓会の力をお借りして、カラーを発揮していただきたい。

松原教育長

高知商業から輩出される魅力ある人材があれば、例えば、企業も今まで門戸を閉ざしていたということであっても、今後は門戸を開くということにつながっていく、ということですね。すごいOBがいますよね。そういうOBが卒業生一人ひとりについているという感覚ですよ。例えばどこかで商売をするにしても、各界のOBがいるということは本校のメリットですよ。

西山委員

実業の高校というのは、商業と工業と農業になりますが、やはり商業高校は骨太ですよ。商業高校の教育に対して、自信と誇りを持っていいと思います。

門田委員長

他にございませんでしょうか。

では、採決に移ります。「市教委第1号高知商業高等学校の課程、学科及び科の設置に関する規則の一部改正について」は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

委員一同

————— 異議なし —————

門田委員長

それでは、ご異議なしということで、市教委第1号「高知商業高等学校の課程、学科及び科の設置に関する規則の一部改正について」は原案通り採決されました。

以上で、本日の議事日程はすべて終了いたしました。

これで教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後4時30分

署名

委員長

3番委員
